

★ アンケート回収数は、児童403名、保護者228名、教職員21名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、評価(A～D)は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 平均、総合評価は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	41 52 20	44 45 70	11 3 10	4 0 0	3.2 3.5 3.1	3.2 ○ 授業の分かりやすさについては、児童・保護者の回答及び教職員の自己評価からも概ね肯定的に受け止めていることがうかがわれるが、昨年度からすると教職員の評価が0.3P低くなっている。学校では研修やOJTをとおして指導力の向上を図っているがCRTなどの結果には結びついていない。今後は現在の授業力向上の取組を継続しながらも教職員一人一人の明確な行動・成果指標を掲げさせていく必要がある。 ○ 図書館を利用したり、図書支援員と連携した活動を行ったりしたので、児童の意識は昨年度よりも向上している。しかしながら、教職員によって取組に差があったので、教職員の評価は低くなっている。現在の取組は有効であると考え、それを教職員が同じように取り組んでいくことと家庭への啓発を促していくことが必要であると考え。 ○ 学習習慣の定着については、教師の自己評価以上に、児童の評価がかなり低くなっている。校務(学習)部では、基本的な学習習慣の項目を掲げているので、それを職員や児童が意識化し、共同実践を行っていくことが喫緊の課題である。 ○ 家庭学習に関しては、概ね良好な評価をいただいているが、保護者の方から家庭学習の量と質について意見をいただいている。今後、家庭学習の目的・意義、内容・方法等について考え、学校・家庭で共通理解のもと実践していくことが喫緊の課題である。	○ 児童、保護者の調査結果からも分かりやすい授業づくりを心がけ、指導していることが伺える。学力調査等の結果に結びついていないことは残念だが、その結果を分析しながら、先生方も目標をもって取り組んでいくことが大切だ。 ○ いつの時代も読書の習慣化は児童の心や知識を豊かにするものであることは自明の理であるので、ぜひ、学校だけでなく家庭でも取り組めるようなシステム作りをお願いしたい。 ○ 家庭学習の定着は家庭によって差があるので、家庭への働きかけも千差万別で大変だと感じる。それでも学校・家庭で「質と量は大事にしながら、個性を伸ばせる内容」にしていくことを共通理解しながら、進めていくことが大切だ。
2	学校は、本に親しみ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	31 48 11	35 47 61	23 5 28	11 0 0	2.9 3.4 2.7		
3	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	19 60 10	42 36 80	30 4 10	9 0 0	2.7 3.6 2.9		
4	先生は、宿題や宅習など、日々の家庭学習への適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	65 60 0	22 35 89	8 4 11	5 1 0	3.5 3.5 2.9		

2 心いっぱい (豊かな心)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
5	学校は、元気なあいさつや会釈について適切に指導している。	児童 保護者 教職員	44 56 10	38 42 65	13 1 20	5 1 5	3.2 3.5 2.8	3.3 ○ 本年度は「親子であいさつ登校」を保護者にも協力をいただきながら実施した。評価としては昨年度とほとんど変わらないが、学校でのあいさつは少しずつよくなっている。今後は、これを継続していくとともに、学校ではあいさつの意義について児童へ指導していきながら個人差に対応していきたい。 ○ 無言清掃が概ね実施できている。また、高学年の児童が始業前の奉仕活動に勤しむなど校内美化に取り組む姿も見られる。このことから昨年度同様評価は高い。一方では、校内の落とし物が多かったり、通学路にマスクが落ちていたりするので、児童の心に落とし込むように道徳を中心とした指導も必要である。 ○ 昨年度からすると教職員の評価がとても低くなっている。特に、トイレのスリッパが並んでいなかったり、廊下を走ったりする児童が見られる。学校では、その場での指導とともに褒めることを、学校全体が一丸となって継続的に指導していくことが大切である。 ○ 昨年度同様、高い評価を得ている。それは、いじめや差別のない人間関係や思いやりの心が醸成されてきていることからも伺える。しかし、日常的に心ない言葉や悪口などで困っている児童は見られる。そのような児童が少しでも減るように今後も児童同士、児童と教師を軸とした人的環境づくりに努めていくことが大切である。	○ 平均して児童の声は小さいが、あいさつはしっかりしているようである。横断歩道を知らん顔をして通っていく児童が数名いるので、あいさつの意義や会釈等で反応することの大切さを教えていってほしい。親子であいさつ運動も続けていってほしい。 ○ 生活習慣に関するものは小さいときから家庭でのしつけや習慣が根強いので指導は難しい面がある。あいさつやトイレのスリッパの並べ方、掃除等、当然のことのようにきちんとできる子と何回いっても身に付かない子もいる。個別指導の大切さが出てくるが、本人の力量もある。やはり、小さいうちは「褒めて伸ばす方が効果的」だと思う。 ○ 日常的に心ない言葉、悪口が見られるということが子どもの世界にあることは大変残念なことだ。言葉の大切さや優しい環境作りを期待する。
6	学校は、無言清掃が定着し、環境美化が行き届いている。	児童 保護者 教職員	37 54 20	43 41 80	14 4 0	6 1 0	3.1 3.5 3.2		
7	学校は、返事やくつ(スリッパ)並べ、正しい廊下歩行など、基本的な生活習慣の定着に向けて、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	38 58 5	39 39 90	17 2 5	6 1 0	3.1 3.6 3.0		
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	76 45 20	17 46 75	4 8 5	3 1 0	3.7 3.4 3.2		

3 汗いっぱい (健康・安全)

門川町立門川小学校 (NO. 2)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	57 52 6	30 44 67	8 4 27	5 0 0	3.4 3.5 2.8	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランに基づき、係による必要な体力を高めるための運動の研修や資料提示による手立てをとっているが、結果には十分に結びついていない。体育科の授業改善を軸として、普段からの運動の習慣化を浸透させ、体力向上を図るための具体的方策について工夫・改善していく必要がある。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯については、徐々に改善が図られてきている。しかし、メディアについての意識は変わらず低い傾向にある。本年度は学校保健員会等ができなかったので、学校保健委員会や参観日等で啓発を行うような取組を実施するとともに「かどがわ4か条の再度徹底を図っていく必要がある。 ○ 給食指導の徹底や弁当の日等の実施により、児童の食への関心の向上につながり、高い評価となっている。次年度もこれまでの取組を継続できるようにしていきたい。 ○ 地域の安全見守り隊の方々との連携により、登下校時の安全に対する意識や態度は高まってきている。避難訓練(防災の日)については、特に、年3回の地震・津波対応を中心に計画的に実施した。しかし、危機を予測し、回避する能力は十分身に付いているとは言えない。その育成に向けた計画的・継続的な安全教育の推進が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上こそ学校だけでは難しい面があるので、地域のスポーツ少年団との協力を図りながら体力向上を進めていくと思う。学校の役割としては、様々な運動に親しませながら、運動に興味をもつきっかけづくりの役を担うと思う。 ○ 以前からメディアに関する取組を行っているが、様々なメディア媒体やゲームアプリ等が次々出てくる中で、指導に限界を感じるが、根気強く働きかけを行うしかないと感じる。 ○ 一斉避難訓練において、地区長や民生委員・児童委員等の協力を仰ぎながら、実際に効果のある避難訓練にしていく必要がある。また、児童が自ら考えて、命を守る行動ができるようにしていく必要もある。そのための計画を考えていきたい。
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	46 57 0	33 39 78	14 4 22	7 0 0	3.2 3.5 2.8			
11	学校は、給食指導や弁当の日の実施など、望ましい食習慣の定着に向けて、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	64 64 35	25 32 65	7 3 0	4 1 0	3.5 3.6 3.4			
12	学校は、避難訓練や交通安全教室を通して危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	64 62 25	29 34 70	5 3 5	2 1 0	3.6 3.6 3.2			

4 連携等

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
13	学校は、地域の人材を生かしたふれあいや体験活動を積極的に行い、キャリア教育の充実に努めている。	児童 保護者 教職員	63 45 21	26 46 58	8 8 21	3 1 0	3.5 3.4 3.0	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年単位で、ようこそ先輩・よろしく先輩や地域の方々の協力による講座や体験活動等に取り組んだが、このコロナ禍ということもあり、できないことも多かった。評価を見ると、児童は、高い充足感を味わっており、保護者からはその必要性を重視する意見をいただいているので、工夫した取組の実施を考えていくとともに学校支援地域本部との協力を充実させていく必要がある。 ○ PTA総会や学級懇談会は実施できないこともあったが、学校便りやお知らせ文書、マチコミメール等を活用して、できるだけ学校の情報を分かりやすく伝えた。それにより概ね良好な結果となっている。ただ、ホームページについて行事の更新等をお願いする意見もいただいたので、今後もホームページの更なる活用を図りながら、様々な機会や方法で、学校の取組や児童の活躍等についてアピールするとともに、行事計画や連絡事項の確実な伝達に努めていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ このコロナ禍で地域人材を生かした取組は難しい面もあったと思うが、その中でも工夫して実施を行い、高い評価を得ていることに安心した。ぜひ、コロナ後は、学校だけの学びに留まらない地域の方の協力を得た学びを行ってほしい。 ○ 学校や児童への苦情だけでなく、称賛の声がより多く聞かれる学校、そして、地域でありたい。今後、一層の双方向による情報交換の活性化とプラス面のアピールができるような関係を構築していくことが大切であると考え。
14	学校は、教育目標や課題、必要な情報等を、PTA総会や学級懇談会、学校だより等を通して、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 54 11	— 40 83	— 5 6	— 1 0	— 3.5 3.1			

5 総括

門川町立門川小学校 (NO. 3)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者、児童について、高い評価を得ているが、現状に甘んじることなく本校における課題を見つめ、その改善を図りながら、よりよい学校運営を目指していく。 ○ 全体的に教職員の評価が低くなっているのは、単に謙虚さだけではなく、課題に対する認識の甘さ、取組の不十分さが結果として表れていないこととして受け止める必要がある。今後、教職員一人一人による学校経営ビジョンに基づいた目標の設定と取組内容の明確化が必要である。 ○ コロナの影響により学習活動が制限される中、行動や健康・安全について大きな問題はなく、日々健やかに成長している。ただ、学力の定着については十分な結果を得られていない。これらを支える基本的な学習習慣や生活習慣に課題がある。これらの改善は学校だけでなく家庭の協力も大切である。今後も学校としての取組の工夫・改善だけでなく、町教委や地域、家庭が協力して学校運営をサポートしていく必要がある。 ○ コロナ禍の中、全学年を通じ、保護者や地域の協力を得ながらキャリア教育を含めた体験活動を実施してきた。これからも学校運営協議会とともによりよいキャリア教育の推進を図っていきたい。

6 次年度への改善について

<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員一人一人が学校経営ビジョンに基づいた目標の設定と取組内容の明確化により、授業力向上も含めた学力向上を図っていく。 ○ あいさつから始めるコミュニケーション能力の向上を図っていく。 ○ 自助(自分で考えて自分の命を守る)、共助(地域で助け合いながらそれぞれの命を守る)が機能する防災の在り方を考える。 ○ このような世の中であっても、人との関わりの中で豊かな心が育まれるよう学校や地域と一緒に保護者も連携し、子どもたちを見守っていく。 ○ さらに学校、家庭、地域の連携を密にし、信頼関係で結ばれた協力体制を作っていく。
